

大和歌抄九

夏三

和書門			
類	號	函	架
一	二五	二	六
五	八	三	七

和書			
類	號	冊	函
一	二五	三	四
五	八	二	〇〇

內閣文庫	
番號	和 18251
冊數	37 (10)
函號	200 214



Vertical columns of faint Japanese text, likely bleed-through from the reverse side. The text is arranged in approximately six columns. A red diagonal mark is visible in the upper-middle section of the page.



丈本和字抄巻第九

夏部三

歌

夏秋 五月 紫陽草 夏草

夏聖 蚊毒火 夏衣 麻

瞿麦 花 夕白 蓮

麦 友田 夕立 蝉

茅桐 納涼 泉 氷室

夏鹿 夏虫 晚夏 荳和椀

夏

遠保四年百首并 光明寺入在抄

友の心よりしるすから大のひらりもとじゆあま

千の百首并合 後之我大ぬき

夏虫の思ひとつとせぬのうさひも心ひりあ

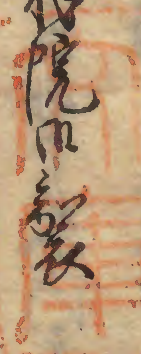
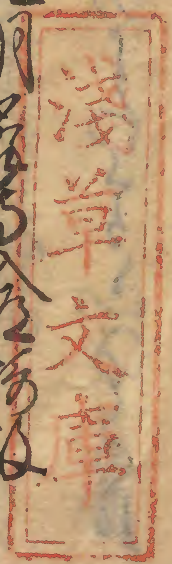
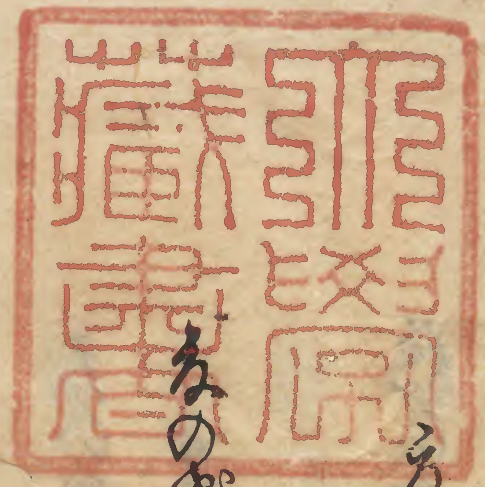
私安二年持柄交百首安和門流四系

あつた心より大腹持てはるたゆらなれし

百首并合 後之我大ぬき

あつた心よりとつとせぬのうさひも心ひりあ

十歌百首并合 後之我大ぬき



御出に... 御出に... 御出に...

乾元二年他国より合版 兼中納言内通

元少一う... 元少一う... 元少一う...

二百廿一箇中

新清... 新清... 新清...

各一申

法眼源全 此等 拾遺師仙覚

なると... なると... なると...

二百廿一箇

兼中納言内通

なのか... なのか... なのか...

兼中納言内通

源仲正

つり... つり... つり...

二百廿一

兼中納言

月... 月... 月...

二百廿一箇

三坊門院抄

約... 約... 約...

二百廿一箇

後二色源澄

と... と... と...

六拾五箇

位美初旨

庭... 庭... 庭...

保延二年

松院志末

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

白首

中

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

白首

中

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

白首

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

中

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

中

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

白首

中

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

白首

白首

中

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

中

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

中

あはれはしむるあはれはしむるあはれはしむるあはれはしむる

その片々たる書物に
校書火

百首目下

後鳥羽院日記

その片々たる書物に
校書火

後鳥羽院日記

その片々たる書物に
校書火

百首目下

後鳥羽院日記

その片々たる書物に
校書火

その片々たる書物に
校書火

百首目下

後鳥羽院日記

その片々たる書物に
校書火

百首目下

後鳥羽院日記

その片々たる書物に
校書火

百首目下

後鳥羽院日記

その片々たる書物に
校書火

百首目下

その片々たる書物に
校書火

後鳥羽院日記

その片々たる書物に
校書火

百首目下

後鳥羽院日記

牧事火乃焼よあうこいしよこれめじろくさつらんを

陽海院内百首 於中初云師内々

ちうのふとけちらるさとの牧事火いさつらん光みぬ

百首牧事火 皇太后を文後如々

又定のそこてあうあり火のうらりそてうらりらん

文治三年五社百首をあり火

わらもくへい殿ふさううなうありちうまわりんこ

天徳六年七社百首をあり火

殿々由歌

をぬりこちうらうの田んをくへいありんこそん

永仁元年の表并合巻よりなる

な文由通約書

あり火乃焼や店よのうらん今すじりまき野の心あめ

百首并 年まはは

牧事火のうらりのまきやのあてうらりあうまの月

西暦二年百首をあり

ふらりのうらりうらりとをくへいひのうらりあうらり

いそま牧火 伝系極極改

すうらりうらりあうらりのうらりあうらりあうらり

な文

三百六十首中一

一

なれ目のすまぬねらりしあつさそそ夜ぬさけけし

和久四年一百首な夜 後松約長

な夜ひらきまのめされけうさうさうさうさうさう

建保三年の百首 後二位源隆白

な夜しうさうなをけとれまよひのゆへにわのめぬのさ

和久七年一百八首 兼中納言定家白

あつさめよつひさのめさうさうさうさうさうさう

六百首中合な夜 大納言三郎

橋のむしをけのさうさうさうさうさうさうさう

階後約長

あつさめ花梅一風さそむしをけとそそさうさう

久母百首 花園左大臣

とそそふがめたさうさうさうさうさうさうさう

和久二年四百首 後二位源隆白

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

大納言三郎

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

森

六百首中合な夜 後松約長

のいふことなきの藤とさうしては月とみえり

階法紹長

うさひの藤をまじはす藤のうら月と見れば秋のさ

後二任藤澄

打つ藤の月と見ればさうしては月とみえり

藤道法師

恨くも教ふ藤はあつてさうしては月とみえり

大藤の藤

昔の藤の月と見ればさうしては月とみえり

正三位藤原

神の月と見ればさうしては月とみえり

藤原の藤

藤原の藤

わさひの藤とあはれ月と見ればさうしては月とみえり

水久田平百首藤

仲之藤

わさひの藤とあはれ月と見ればさうしては月とみえり

藤原の藤

丁まひらの藤とあはれ月と見ればさうしては月とみえり

藤原の藤

ふたつの藤とあはれ月と見ればさうしては月とみえり

藤原の藤

藤原の藤

白鳥と鶴ととつた家柄をいひのりよわよわの月

けすねを月のついでりきたたき波所の流石

こいよまうのゆるいあつさをえくそや

とてとてい

清子内親王御奇合五夜月

源光認の長

まの夜月よほこの下しとつち六の月よきたるな

言指部

民ア台内歌

わ交
あなを月よ下し麻もつた月をよみかた

何事百首五夜

ふひ祝をうとす村の月よきとまわてを

うりうのあけしじらり物とそあつた内のやう

言指部

史後部長

あのみをいさうり張つて一はわぬあつた書と

衣笠内を長

目らるれおふさひうふかりの蘇内風とすし

言指部

権治正公の

おんあつたさうりつてをきつたあつた

瞿麦

六月に暮るるんをいかりたつたりつたり

あつのみて梅子を

徳意朝長

都云写しつゝおはるにのりていさよは家へつて

家集

あつのみ

二葉ちりり梅子とありれあつりつゝその林よあつと

家集とていさ合 元貞

お獲り漁りあつていさよは家へつていさよは

あつ

あつ

うもあつていさよは家へつていさよは家へつて

家集とていさ

徳意朝長

三葉のいさよは家へつていさよは家へつて

と梅子とあつていさよは家へつていさよは家へつて

久安百首

皇太后御成道御成道

庭のあつていさよは家へつていさよは家へつて

寛永四年乙卯六月六日 東右大臣 弁合

仲實朝長

庭のあつていさよは家へつていさよは家へつて

千五百首弁合 後鳥羽院 乙卯

あつていさよは家へつていさよは家へつて

中務

あつていさよは家へつていさよは家へつて

源親光

贈右大臣

授子のよしとてうらむるらん人々もまてのひま

百首

順徳院

夕霞のさしひのまよりと文のさげまはりて

名無四年五月八日榮右大臣家守合

源親光

府より向て授きまはしりてさげまはりて

天長元年五月十一日原由一と授き月親

源守合

源親光

ちよと白ひあつてもゆかたのさげまはりて

元正元年八月八日親光と授き首親光

指條

ちよと白ひあつてもゆかたのさげまはりて

建長元年百首

夕霞のさしひのまよりと文のさげまはりて

源親光

ちよと白ひあつてもゆかたのさげまはりて

源親光

ちよと白ひあつてもゆかたのさげまはりて

ちよと白ひあつてもゆかたのさげまはりて

花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは
花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは

建保四年一首首 花中約云

花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは

同日一首一首首 花中約云

花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは

後二首一首首

花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは

花中約云

花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは

建保八年一首首 花中約云

花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは

花中約云

花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは

花中約云

花中約云

花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは

花中約云

花のよきものなるをいふはしるはたれをいふは

花中約云

長永三年丙申爲名爲長永年合書置於

~~~~~す

~~~~~の表のむらりん~~~~~か~~~~~此後

隋子親王敬帝合聖表加加る長門

大和の信少も由たされ~~~~~の御して~~~~~

永久四年百首~~~~~

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

~~~~~  
長命寺
~~~~~  
指指の礼法

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

~~~~~  
洞院持正表百首五月後ぬる

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

~~~~~  
藻堂門院也

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

~~~~~  
百首~~~~~  
~~~~~  
兼書法仲

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

~~~~~  
久安百首
~~~~~

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~

~~~~~  
天曆十一年二月芳子合

~~~~~  
甲勢

~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~



さくさく  
よきあす

かきこの花はそじらぬけいようひらひらしのきき

歌集明後妻  
小登少所

花のわいさう後さるいさあひの野へしり

家集  
さくさ

さくこの花はさくさるさくさのきき

持中宛之信乃之家命  
合盟書到之御教

源仲正

病中さくさくわいさうさくさくさくさく

歌集右之さく

ゆきさくさくさくさくさくさくさくさく

歌中さくさく

さくさくさくさくさくさくさくさく

保安二年同五月務乃長古を  
合盟書

右志乃長

さくさくさくさくさくさくさくさく

通合乃長

さくさくさくさくさくさくさくさく

天曆十一年又月芳子女所命

清原教女所



文政十一年六月内忠節長政等合意盟書

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等

長政等



とてなむのしよへはわらうるをきとあつてわき麻の枝と  
ふりまきまき合

寛政三年廿八日  
寛政三年廿八日

弟中納言

氏ア内家

とてなむのしよへはわらうるをきとあつてわき麻の枝と  
ふりまきまき合

とてなむのしよへはわらうるをきとあつてわき麻の枝と  
ふりまきまき合

贈紀女帝

とてなむのしよへはわらうるをきとあつてわき麻の枝と  
ふりまきまき合

え捕

とてなむのしよへはわらうるをきとあつてわき麻の枝と  
ふりまきまき合

わらうるをきとあつてわき麻の枝と  
ふりまきまき合



植中納之定頼

此の御書は、  
ちよとたれを人のをせむを

祐挙

らん藤中納のしんは、  
まのよれがうらるるを

惠孝は

我々のしんは、  
おのれがうらるるを

家業

植中納之定頼

志がうらるるのしんは、  
おのれがうらるるを

屏門後寺

福倉右大臣

我々のしんは、  
おのれがうらるるを

此の御書は、  
おのれがうらるるを

此の御書は、  
おのれがうらるるを

此の御書は、  
おのれがうらるるを

此の御書は、  
おのれがうらるるを

此の御書は、  
おのれがうらるるを

此の御書は、  
おのれがうらるるを

此の御書は、  
おのれがうらるるを

此の御書は、  
おのれがうらるるを



これらに於ては、是れを以てして、

其の如きこと、

あつた

このこと、

美談社百貨會合

其の如きこと、

あつた

百部<sup>あつた</sup>の如きこと、

あつた

このこと、

あつた

このこと、

あつた

このこと、

あつた

このこと、

このこと、

あつた

このこと、

あつた



ふりり雲の霞やあかんとくものまよふ花

あつたうかよきとそはなをよとてうす物りみかた

はなはなとてうす物りみかた

はなはなとてうす物りみかた

はなはなとてうす物りみかた

正三位経教

日くすう音はあかしくうす物りみかた

澄佐約良

はなはなとてうす物りみかた

丁

ト

はなはなとてうす物りみかた

遠保三年名所百首

はなはなとてうす物りみかた

千五百首

はなはなとてうす物りみかた

遠保四年

はなはなとてうす物りみかた

和歌元年

はなはなとてうす物りみかた

毎日



小倉山に雲を巻くや  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

隠板百首

こゝろは 隠れよき  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

歌集久久

後教の旨

こゝろの 隠れよき  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

百首

あはれは

あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

連

くら

あはれは

あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

遠く元年六月百首

あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

あはれをのぼりて

あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

文治六年の百首

あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

百首

あはれは

あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて  
あはれをのぼりて

あはれは







之集入を片左氏

又これに池の菖草よありとゆる風のけし

歌を池邊草方附 前中納言定家

同く池の菖の夕月照くよそあふりけと白ひと

遠久元年六月一日百首

安嘉門院四条

同く池の菖の夕月照くよそあふりけと白ひと

六帖歌

信実朝臣

菖草よあり夕花有花よこすやうとんちんちん

西川院山阿百首

大納言輝頼

菖草よあり夕花有花よこすやうとんちんちん

指中納言

菖草よあり夕花有花よこすやうとんちんちん

後

五十六

後人

菖草よあり夕花有花よこすやうとんちんちん

後人

菖草よあり夕花有花よこすやうとんちんちん

後人

菖草よあり夕花有花よこすやうとんちんちん

茶



殖物百首中

巻紙のお名

あまのつたてうらうらひのたにひりあ船やうら

千五百首介合

長原松橋殿

いひのまはらうらうらうらうてむらうらうら

ら松原

信実の巻

いひのまはらうらうらうらうてむらうらうら

氏方の巻

いひのまはらうらうらうらうてむらうらうら

夏田

建仁二年丁卯年五月二十七日卯時

前中納言定家

いひのまはらうらうらうらうてむらうらうら

建長四年毎百二之中國方の巻

いひのまはらうらうらうらうてむらうらうら

百首百首の巻

後二位源隆

いひのまはらうらうらうらうてむらうらうら

建長八年百首の巻

いひのまはらうらうらうらうてむらうらうら

百首

長原内侍

いひのまはらうらうらうらうてむらうらうら



正徳元年

此詩のねらうる猶美の又月夜に懐くをよむる由

夕文

五百首の合

大念師

夕文のちのこころけいひをそ新得よみたる院の白玉

前中納言定家

風さう新の下草打あられしくあけ夕文のそ

正治二年百首の合

後中納言定家

夕文またあうりもそあふんじりぬの夕文のそ

正徳四年上院の合

萬葉のしりあけのそあうり下をそあふんじり夕文のそ

五百首の合

小侍

あふんじり夕文のそあふんじり夕文のそあふんじり夕文のそ

建仁元年とらり五十首の合

前中納言定家

あふんじり夕文のそあふんじり夕文のそあふんじり夕文のそ

承久二年百首の合

あふんじり夕文のそあふんじり夕文のそあふんじり夕文のそ

建保元年百首

夕文のそあふんじり夕文のそあふんじり夕文のそあふんじり夕文のそ







建長八年百首あ合

ぬのまをゆりきあふの里いさうつあけのうたの

光後約長

クまのむらりかを感むわこく日くけいまうぬれ白ふ

歌集

中勢のみこ

新門  
たう都のをとこのまわぬらん園のうらみ城の

輯

建保三年のふ百そ後成の女

浪舟はをきうつれ心の標さうぬ木葉の家いさう

右京家光

徳らうつ身をうらむのまのなこのあその森いぬや

歌集約長

後成約長

かきむさうりさうらうらうらうらうらうらうらうらう

玉のつまうらうらうらうらうらうらうらうらう

我名のつらみゆらうらうらうらうらうらうらうらう

百首年ぬれ標 後二位家澄々

夕まのを吹りし山月いさうらうらうらうらうらうらう

永仁二年の表なる所あ合

右京家光

未隠てあうらうらうらうらうらうらうらうらうらう



川集あむや中

及京極指政

村の北にそよひの山にさしつけしはつらつらと

蕭颯風をこぼるる音もさびしき

くれしりあめふりつらつらと

歌集

西乃上人

心裏のやまのそらにうらやま

標多野周林

千里

晴標のこゑうらやまありつらつらと

寛平十一年の合こゝろ

と力もよひつらつらと

康平四年十二月月日

二条若白大納言

とつらつらと

とつらつらと

とつらつらと

常盤山本末

承久四年

とつらつらと

とつらつらと

良忠法師







あふの権の事毎一五付てく此方もなくゆきう女

廿三

後由法師

あふの事ひくくまて記せしゆめしとやうくうん  
あふの事ひくくまて記せしゆめしとやうくうん

文集百首すくくく門毎天中考

八条院の会

中念ころの情の情の情とて念とられぬくくく

久安二首

約書門院安院

あふの事ひくくまて記せしゆめしとやうくうん

小集抄

法住入名関白

あふの森れ指やうかうんをくくく

建長八年百首あ合正三位忠定卿

あふの森れ指やうかうんをくくく

新大御之記約々

あふの森れ指やうかうんをくくく

后中御具氏々

あふの森れ指やうかうんをくくく

后九条内大臣

あふの森れ指やうかうんをくくく

六百首并合抄

正三位孝治々



ひきもさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

大なるよき

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

兼道法師

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

建号八年百首合 氏家系門名

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

弘治元年百首

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

百首年百首合 兼道法師

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

百首年百首合

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

寛治元年十一月後二任在系親直家合

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

源輝光

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの

兼道法師

かきよさくらの田んぼりよきものくらえよ七つさくらの



才ののみ

あきくまの秋情とあるひれいしゅうの秋情とある

あえ四年十月南彦百首

後三夜のおま

着よるく梢のせとれじくあふく有のつひとせとせ

海を宿次百首守と 幕後のお姫

たぐせの海志とあふくあつたあつたあつたあつたあ

久永十一年毎日百首中 民から内政

雲のあふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあ

卜首中

あふくの梢とあふくあふくあふくあふくあふくあふくあ

又あえ年毎日百首中

あふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあ

百首中

あふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあ

後のえの松るあふくあふくあふくあふくあふくあふくあ

あふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあ

建保二年六月文字百首

あふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあ

才調

あふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあふくあ



五  
よのしほひくしむらゝく浮ぬらうとてあへんかゝる所  
にひらけりていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり

百首出年

中門院日記

ひらけりていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり

百首出年

新院合三品のめい

十歌百首

中綱と定歌編

ひらけりていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり

建長八年 毎日三中 成るる歌

ひらけりていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり

又永四年 毎日三中

ひらけりていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり

建保三年 毎日百首 及三位

ひらけりていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり

在東康光

ひらけりていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり

子五首 毎日百首 及三位

ひらけりていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり

在三位保孝

ひらけりていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり  
ていふもとのひらけりていふもとのひらけり



松尾社百首  
巻終

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社

松尾社

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社

遠仁元年  
松尾社百首

松尾社

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社百首

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社百首

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社

松尾社

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社百首  
松尾社百首

松尾社百首

松尾社

松尾社百首  
松尾社百首



五十四首

兼中納言定家

夏の日はなつたれいあひらさるひの柳よまじ川凡

建久七年百九十八首

夏の朝は月そくらうらむ風さびあそぶの朝のまの

白雲松栢の歌待す合水さ涼自秋

夏夜秋さよこぬ神さ月内さたの浪のいそぐ内あま

書よのこおはるあははまきて秋さよこゆの歌のま

兼法和也

音の夏の木すあの本じり川歌の浪の庭よりそく

後三位定家院卿

神ひらてあまの辰さうりい海あつりの松乃久花

大藏卿定家

あな秋のしり若さくくみ氷あつりの心乃半此木

兼侍从定家院卿

兼法和也

あのだたさひきそはあつりの海さつりのよこしあ

あふの川さあひささつりあひささつりあひささつりあ

兼中納言定家院卿

神壇のみさし川の夕さくく神さくくさくくあつり凡

兼不知

よこし







百六十四日 江戸の事 江戸の事 江戸の事 江戸の事

聖徳太子

凡人の事 凡人の事 凡人の事 凡人の事

和歌山

和歌山 和歌山 和歌山 和歌山

和歌山

和歌山

和歌山 和歌山 和歌山 和歌山

和歌山

和歌山 和歌山 和歌山 和歌山

和歌山

和歌山

和歌山 和歌山 和歌山 和歌山

和歌山

和歌山 和歌山 和歌山 和歌山

和歌山

和歌山 和歌山 和歌山 和歌山

和歌山

和歌山 和歌山 和歌山 和歌山

和歌山



源仲徳

月やうき并のふ成けよまた下りしきよのふはけり

永仁元年世忽百首 在系あ歌

右のよたあう能のたふすしとさよのあてみして

嘉元四年上旬南座 百首 後三任のきま

海しとさうけり美のりやふれ志あましくさゆり

歌系あな中 伝実初信

内さうきあまのふのこけりあは後さうねとくす

又信元年廿八日序内は系扱

すうとあふ入るあまうくすまのよつくく舞の下ま

遠保四年内裏十首あ合

信正初信

又すしとさうきあまのりつとあふあふをうけは

新女院合二系扱とあ五十首

野とあな名信

志んやとさうきあ松けのりきとこたおりかゆり

西暦二年百首 才之親日

内さうき松のま法のり又海とさうきあまのり

あ人初と海あ

のさうきとさうきあふりつとあふあふをうけは



千五百首方合

新大納言忠信

松戸のまきけら海よりとて摘みおちりたるのしほ

は楊枝船

あやしのとくしこのまきけらとて摘みおちりたるのしほ

泉

慈光寺麻風寺玉法井 泉をたぎる人後めり

あやしのとくしこのまきけらとて摘みおちりたるのしほ

五社百首泉

あやしのとくしこのまきけらとて摘みおちりたるのしほ

あやしのとくしこのまきけらとて摘みおちりたるのしほ

永之田平百首避暑 仲夏節信

あやしのとくしこのまきけらとて摘みおちりたるのしほ

瑞川院百首 新中納言通房

あやしのとくしこのまきけらとて摘みおちりたるのしほ

後頼朝

あやしのとくしこのまきけらとて摘みおちりたるのしほ

後頼朝

あやしのとくしこのまきけらとて摘みおちりたるのしほ

久安百首

花園大納言小左

あやしのとくしこのまきけらとて摘みおちりたるのしほ



あゆ院入及二お親王殿お千首なる事

弟中納言

うきん秋のさきさきうららけ月とまじり松風のあ

百首なる事

後二位源隆也

月さきさきあつ秋のさきさきのさきさきなる事

建長八年百首なる事 信実の長

さきさきあつ秋のさきさきのさきさきなる事

百首なる事

兼建長師

さきさきあつ秋のさきさきのさきさきなる事

泉由五橋

さきさきあつ秋のさきさきのさきさきなる事

樹法如秋

原伴正

さきさきあつ秋のさきさきのさきさきなる事

水室

百首なる事

唯徳院法親

さきさきあつ秋のさきさきのさきさきなる事

善徳和尙

さきさきあつ秋のさきさきのさきさきなる事

新元三年仙洞寺入る事なる事

さきさきあつ秋のさきさきのさきさきなる事







この歌よふ心もろあさつる水雲をみかへて世を

又慈元年七社 氏ノ錦

ころせし四年よあふ水雲のさけぬたれよとらぬ

と板部四年 中務親王

さしつらひのくみうらそぬらむ水雲の母もたそ

貞應三年百首水雲 氏ノ台カ部

かきつれあつらひのあつらふ冬のもくわら水雲

あえ三年世忽百首水雲の思は納

の里の水雲はつらひたつらひのあつらふ

正治二年百首水雲 正位皇后

まはのさつらひの代よつらひ水雲よみ

西園隠士百首水雲 氏ノ板橋政

かひあつらひのあつらふつらひ水雲よみ

百首水雲 氏ノ板橋政

大和のあつらひの代よつらひ水雲よみ

氏ノ板橋政

まらこの水雲はあつらふつらひ水雲よみ

氏ノ板橋政

けすのあつらひの代よつらひ水雲よみ

氏ノ板橋政







百首出命 萬法如常

又立の及野の草乃露一けとる約麻やぬりてや

又立の及野の草乃露一けとる約麻やぬりてや

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政

後京極持政



なうさあさうさのしりもまね下終しるさ  
み首あめ  
まゝぬまがのまよようりておぼあめしひのま  
つんま  
三百五十首中

後のはげのまよようりておぼあめしひのま  
あま六月十日おのまらふ入

あまのまらふ入  
あまのまらふ入  
あまのまらふ入

あまのまらふ入  
あまのまらふ入

あまのまらふ入  
あまのまらふ入

あまのまらふ入  
あまのまらふ入

あまのまらふ入  
あまのまらふ入

あまのまらふ入  
あまのまらふ入



建保三の年名宗首之四年に徳院の御

あるはまの御はたしむるはまの御はたしむる

百首の御はたしむるはまの御はたしむる

の御はたしむるはまの御はたしむる

建保三の年名宗首之四年に徳院の御

あるはまの御はたしむるはまの御はたしむる

百首の御はたしむるはまの御はたしむる

の御はたしむるはまの御はたしむる

建保三の年名宗首之四年に徳院の御

あるはまの御はたしむるはまの御はたしむる

建保三の年名宗首之四年に徳院の御

あるはまの御はたしむるはまの御はたしむる

百首の御はたしむるはまの御はたしむる

建保三の年名宗首之四年に徳院の御

あるはまの御はたしむるはまの御はたしむる

百首の御はたしむるはまの御はたしむる

の御はたしむるはまの御はたしむる

建保三の年名宗首之四年に徳院の御

あるはまの御はたしむるはまの御はたしむる

百首の御はたしむるはまの御はたしむる



同日十八年壬申正月廿六日初七日

この月より壬申正月廿六日初七日

天長三年二月廿七日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...











西川院の百首

前中納言道房

おけのさるせのふよとてさびしき女のあはれは

歌集六月河東一編のなまげ者よとて

和泉式部

川の川に流るる水のつらさうらさうらさうらさうら

河原の百首

お中納言道房

とろろのうらせめよとてよみそとて海原のすあはれは

寛文元年女川入内侍

西園寺入左大臣

かきと海あはりのうらさうらさうらさうらさうら

左大臣

神代巻のうらさうらさうらさうらさうら

川集の首のうらさうらさうらさうら

うらさうらさうらさうらさうらさうら

文藝元年七社百首

難波浮くふあま月のあはれとて千鶴うらさうら

うらさうらさうらさうらさうらさうら

文治六年女社百首

うらさうらさうらさうらさうらさうら

寛文元年百首

左大臣







みまいつらふふこの川らさのふさよがよつかり  
家集ま月うくくくくくくくくくくくくくくくく

仔細

年北中よまれうらけとぬおきいせよきよきよきよ

毎百首中

民ア台内歌

く風しむらゆらひてきききききききききききき

みま川ららららららららららららららららららら

古伝記

<sup>六六一</sup>つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

文治十一年毎百首中

ちうと井のほせよみみはははははははははははは

同五年毎百首中

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

弘長四年毎百首中

六月のこころうらうらうらうらうらうらうらうら

表百首中

いりよあいのちあひとらとらとらとらとらとらとら

又巻えん年七社百首

中五月やあとのまねにうらうらうらうらうらうら

貞治五年百首葛和後







いふ中人をれくさたのまうその人々の扱まの

久安百首

待賢つ流河川

才ハトク人々こといふとらぬまうあしとあつて

古紙部

光後約長

ゆりぬらうみらのちまうよみははてぬまうりすう

長善月太長

里人のおろしきそこの音毎ううわううはる世の

百首百首

善徳和局

小橋すうと海の海月うけぬじみさおのりまう

ふ五百首百首合

澄佐約長

石海のまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あつてつりりりりりりりりりりりりりりりりり

又後三年廿八日百首同

まうのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

天仁二年十二月廿五日百首合五首

在友澄伸

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

中院合右太長

六月よみと川をみえたつあつとととととととと

正治二年百首

正三位重光







